天使

発行
天使大学　広報委員会
〒065-0013
札幌市東区北13条東3丁目
TEL 011-741-1051(代)
FAX 011-741-1077
http://www.tenshi.ac.jp

天使女子短期大学　閉学にあたって

天使女子短期大学の閉学

天使大学　学長　近藤　潤子

1947年に札幌天使女子厚生専門学校が設立され、1949年に天使女子栄養学院が開設され、1950年に天使厚生短期大学として改組され、1952年に栄養科が併合され、1954年に天使女子短期大学と名称を改め、1965年に専攻科が設置されました。

2000年に天使大学として認可されましたので、短期大学はそれぞれの学科の在学生の卒業・修了をもって閉学の運びとなりました。

開設から56年間に、衛生看護学科（厚生科含む）2110名、食物栄養学科（栄養学院含む）5121名、助産婦学校135名、専攻科857名、合計8223名の卒業生・修了生が巣立っていきました。

「愛をとおして真理へ」の建学の精神のもと、マリアの宣教者フランシスコ修道会のシスターを中心に、歴代の多くの教員の方々からの薫陶を受け、共に学んだ友人と深い絆を結び、天使での数多くの経験が語り継がれています。

長年の歴史と懐かしい思い出のうちに天使女子短期大学の「閉学」を迎えるには一抹の淋しさを禁じ得ないところですが、2003年12月8日、ケン・スレイマン師の司式により、本学3号館のチャペルにおいて閉学記念のミサを、今日にいたる感謝の祈りの中に閉学記念式を行いました。この御ミサの中で短期大学の歴史を刻んだパネルが祝別され、本学南西角の庭にある聖母像の横に設置されました。

閉学記念式に先立つ2003年11月27日には、完成年次を迎えた天使大学に大学院助産研究科（専門職学位課程）が認可されました。これは2002年12月に新しく制定された高度専門職業人を養成するための専門職大学院の制度による日本で初めての2年制の助産師養成課程です。

実践を大切にして看護師、助産師、保健師、そして栄養士を養成してきた短期大学の実績が大学の認可に、さらに大学院の認可を可能にしてくださったものと、今日まで本短期大学に関わってくださった教職員の皆様に深く感謝申し上げます。56年の思い出が心の糧として末永く皆様の心に留められますように。

変革の中で

天使大学同窓会　会長　岩崎　節子

私は、1984年より専攻科の同窓会長をお引き受けし、皆様の支えで精一杯過ごし、おかげさまで同窓会の母校への熱い思いと組織の底力を実感できました。

1952年、天使助産婦学校設立と同時に教務主任として齋藤和子先生が赴任され、1978年まで、助産婦教育一筋にご尽力くださいました。先日もお伺いしましたら、卒業生お一人おひとり覚えておいでになられ、今でも見守っていてくださることに感謝の思いを新たにいたしました。

助産婦学校から専攻科に移行するために、今は亡きSr中村（セルビリアナ様）のもとに、Sr吉田（フェリシア様）・Sr佐藤（マッサビエル様）が現在の近藤学長とともに、並々ならぬご努力で設立することができました。その後、坪田静子先生が公衆衛生看護教育にご尽力いただき、天使に新しい風を入れてくださいました。50余年の歴史は脈々と受け継がれ、多くの卒業生は、国内はもちろん海外での活躍も皆様の知るところでございます。

そして1999年のクリスマスには、うれしい大学設置認可のニュースが伝わり、専攻科としての保助合同教育を終え、転換期を迎えたと思いました。2001年には、皆様のお力添えで専攻科創立50周年記念事業・記念誌を発行できましたことは大きな喜びでございました。

2003年3月、まだまだ先のことと思っておりましたのに、専攻科38回生をもって卒業生994名を輩出しました。4月、天使助産婦学校・専攻科同窓会と、天使女子短期大学同窓会は天使大学同窓会へ一本化いたしました。6月、私どもが実習で一方ならぬお世話になった、思い出の詰まった天使病院は修道会の手を離れました。一抹の寂しさは禁じえませんが、カレスアライアンスに精神が受け継がれていくことを心から願ってやみません。

7月、道新の一面に大きな見出しで、“天使大に助産師大学院”設置申請ニュースがございました。かねてより近藤学長の強い強い念願が、教職員一丸となったご苦労が実って認可申請の運びとなりました。この一年はこのようにめまぐるしく変動しております。

私ども同窓生は、新しい時代のニーズにあった天使大学の夢の実現に向けて、卒業生の培った伝統を大切に“礎”となることを願うものであります。時代の大きな変化の中で、変わるものと変わらぬもの。変わってはいけないものと変わらねばならないものを皆様と見極めつつ、天使の建学の理念である『愛をとおして真理へ』のもとに、共に手を携えてまいりましょう。

在職10年を振り返って

聖母女子短期大学看護学科　学科長　和田　サヨ子

天使女子短期大学衛生看護学科・専攻科が今秋閉学になるとのお知らせをいただきました。私は、1989年から1998年までお世話になりましたが、この10年間は、4年制大学への移行に向けた水面下での準備のときでもありました。

先生方の養成をはじめ、教育課程の大綱化による検討や自己点検評価の作業など、めまぐるしい毎日でした。しかしその一方で、教職員の皆さまの一致団結した真摯な努力や、互いにたいする優しい思いやりが、私にとって大切な想い出になっていることも、まぎれもない事実です。天使の理念を大切にしようと教職員全員がひとつになって課題に取り組んでいくことができたのは、天使の同窓生の一人として誇りに感じるところです。有能な教職員とチームワークの良さに恵まれ、大抵のことは予定通りに進行していきました。当時はこのことを当たり前のように思っておりましたが、この10年のことを改めて振り返ってみる時、多くの恵みに支えられたからこそ、ここまで達成することができたのだ、と深く気づかされました。

今、天使大学は専門職大学院の設置、編入学生の定員化など、さらなる発展を遂げようとしています。その源にあるのは、教職員の皆さまの相互の一致と前向きのパワーだと、私には感じられます。一致とパワーは、天使大学の宝物です。この宝物が健在である限り、天使大学の存在意義はますます広く知られるところになると信じております。

教職員の皆さまが日々一丸となって、建学理念の旗印の下に、日本で最初に看護短大として出発したという栄誉ある伝統をさらに継承・発展されますことを心より希望しています。

（前　天使女子短期大学衛生看護学科長）

短期大学の閉学に思うこと

看護学科　助教授　小林　千代

初めて天使短大を訪れた時、シスターと職員の方がにこやかに出迎えてくださったことや、学内のあちらこちらに、私の暮らしの中で見慣れた草花が小さく飾られていて、ほっとしたことを覚えています。

1993年に奉職して、初めて実習室係を担当した時、狭くて古く感じられる実習室で学生たちが懸命に練習をしている姿や、前任者の教員たちが手をかけて整えたであろう品々を見て、学生たちのために実習室をより使いやすくしていこうと決心したことを覚えています。

初めて学習ガイダンスを担当して教壇に立った時、入学して間もない1年生が、欠席者もなく居眠りをする人もなく背筋を伸ばして真剣に話を聞いてくれました。その姿を見て、学生たちのために役に立ちたいと心から思ったことを覚えています。

短期大学最後の学年のクラス担任をした時、学生たちは合唱コンクールで「ふるさと」を歌いました。その歌は短期大学最後の卒業式にも歌われました。札幌だけでなく各地から親元を離れ、勉学に励んだ彼女たちの実感のこもった歌声は深く心に残りました。父や母や親しい人たちのいる故郷が人間存在の原点としての「ふるさと」なら、大学は英知の「ふるさと」であって欲しいと願い、卒業祝賀会の席でそう述べました。

「教育は共育」を実感し、「実践を通して人類に奉仕する」ということの意味を、一人ひとりが自分の役割を通して実践していることが、天使の教育環境を作っていることを強く感じています。閉学までの56年の歴史は、人が生まれて親となり、次の世代を担う子供たちを成人させるだけの期間に相当します。

小さい頃から「不言実行」が好きな言葉でしたが、中学生の頃、それは無責任にも通じると教えられて考えさせられたことがあります。しかし教育に限っていえば、言葉で多くを語らなくても人として様々な弱さをさらけ出しながら物事に真剣に取り組むことも、大事なことではないかと考えています。これまで多くの方々が作り上げた大切な環境を壊すことのないように、今関わる人々からも多くを学びまねながら、身を引き締めて学生たちと向き合っていこうと思っています。

神様の大切な娘たちをあたたかく見守り育てる

―天使女子短期大学で受け継がれてきたこころ―

看護学科　講師　三条　裕子

天使女子短期大学で教員として初めて1年生の担任になった時、私は何を大切にして学生たちとどのように向き合っていこうかと、あれこれ考えたことを思い出します。その時に、残念ながら私は直接教えていただくことはなかったものの、折に触れて話をお聞きしていたセルビリアナ様のことを思い出しました。それは、セルビリアナ様が入学式の時、既に入学生全員の名前を覚えていて一人ひとりに声をかけていたというエピソードです。私はそのことの意味をまさに建学の精神の具現化だと感じました。それは学生たち一人ひとりを大切にすることであり、天使に来てよかったと実感できるような関わりをもつこと。すなわち、学生たち自身が一人の人間として愛されているということを実感することによって、他者をもまた大切にし感謝の心をもって奉仕するという精神を培っていくのだと思いました。それから入学式までの日々、必死で新入生の写真とにらめっこをして名前を覚えたものでした。そして、入学式の当日。いざ入学生たちと会ってみると、写真とすっかり様変わりしている人たちも多く、名前を間違ってしまった学生さんも何人かいました。その学生さんには後々まで、「先生、入学式の時に名前を間違えましたよね！」と言われました。しかし、それでもなお、そのような努力は無駄ではなかったと思われるような「とても驚いたし、すごくうれしかった！」という反応もありました。ささやかなことですが、教員自らが学生たちに向けて行動を起こすことに意味があったのだと実感しました。

天使が4年制大学になるのにあたり、天使のこころがどのように学生たちの中に受け継がれていくのだろうと多少案じていました矢先、今年の合唱コンクールで4年生が素晴らしいプレゼンテーションと美しい歌声を披露してくれました。その姿には、短大最後の卒業生である先輩たちの姿を通して天使の伝統をしっかりと感じとり、自分たちもまたそのことを後輩に伝えていきたいという強い意志が感じられ、本当に感動的でありました。そして私もまた、教員として天使のこころを伝えていこうという思いを強くし、襟を正す思いになりました。

私も本学の卒業生で、天使で学ぶことができて本当によかったと思っている一人です。それは一人の人間として、そして看護専門職業人としての今の私を根底から支えてくれている人間観・生命観が学生時代に培われたと実感しているからです。

短期大学としての使命を終え、これから大学としてますます発展をし続けていく天使において、本当に微力ではありますが、今後も天使のこころを大切に自ら成長していこうとする力をもっている学生たちがその力を十分に発揮できるように、サポートしていきたいと思っています。

50年余のあゆみから

—恵まれた時代に感謝して—

栄養学科　学科長　山本　愛子

マリアの宣教者フランシスコ修道会の創始者マリー・ド・ラ・パッシオンの精神を受け継ぎ、「愛とおして真理へ」を教育理念として、地の塩・世の光となって社会に貢献する人材の育成を目標とし、シスターが創設した短期大学は今日まで50年余の日々を重ねています。栄養学科卒業生の多くは栄養士・管理栄養士として社会で活躍しています。

1949年、天使女子栄養学院（1年制）が創設され、1回生が入学しました。その3年後、天使厚生短期大学に栄養科を開校し、1954年に天使女子短期大学へ改称されました。同年3月には、短期大学生（通算4回生）としての1回生49名が社会に巣立っています。私は、49名中の1人として卒業したのですが、今、短期大学閉学にあたり、改めて感慨深いものがあります。

1946年から始まった国民栄養調査で明らかにされた当時の国民の栄養状態は、食糧不足でそれは悲惨なものでした。そのため国民の栄養改善が急務であり、集団給食が実施されるようになりました。あわせて栄養士の需要は急増し、その解決のために厚生省は当時1年制の栄養士養成施設を推奨しました。栄養士は病院給食、学校給食など、主に集団給食の職場で必要とされました。

一方で当時、集団給食による食中毒が頻発するようになり、厚生省はその対策の一つとして集団給食設備の改善、給食に関する管理法等の内容充実を目的に、栄養士養成制度が2年制に改められました。また将来、栄養士が社会の指導的立場になることも考慮し、年間2400時間のカリキュラムが構成されました。これは、週当たり40時間で、学生にとっては非常にハードなものでした。この後、カリキュラムは社会情勢に合わせて再三にわたり改正が行われています。

1962年に管理栄養士制度が法制化し、1985年、同制度が国家資格に切りかえられました。短期大学卒業生は、2年間の実務経験を経て国家試験が受けられます。

本学での管理栄養士国家試験合格者は全国的にも常に上位を占め、他の大学からはどのような教育をしているのかと注目を浴びています。

就職についても、ぜひ天使短大の卒業生をという求人が多かったのも幸いでした。それらの背景には、ハードなカリキュラムに加え、シスターたちの人を慈しみ、社会に貢献する建学の精神を柱に、知識、技術だけではなく、豊かな人間性を育む教育が、就職してから良い評価をいただいたのだと思います。

短期大学当時の学生は、クラスごとに1講目の授業開始前、聖歌を歌い、祈る心を養いました。また、年に1度の修養会では、授業から開放され、自己と向き合う時を過ごし、クラスでの友情を深めていきます。その他、合唱コンクール、クリスマスの集い等で、共に祈り、クラスの和を深めていました。2年間という短い学生生活で、相手の立場に立ち、他者を思いやり、社会に貢献する人格が学内の教育環境から自然に身についていったと思われます。シスターや理事長・学長をはじめ、諸先輩・先生の情熱で専門職業人として、栄養士、管理栄養士が誕生し、社会で高い評価を受けています。一方で、栄養士像は時代とともに大きく変わってきており、短期大学はひとつの節目を迎え、時代のニーズに応えるために高度な知識、技術、人間性を備えた管理栄養士養成校に移行しました。来春、天使大学1期生が社会に巣立つ時を迎えていることは大変喜ばしいことであります。

教養教育

—天使女子短期大学から天使大学へ—

教養教育科　科長　後藤　聡

1991年、旧文部省が大学設置基準を大綱化し、それまで一般教育として必修だった教養教育の扱いは、各大学の裁量に任されることになりました。大学の個性を尊重するための方策でした。大綱化後は、大半の大学が教養教育科目の卒業単位数を減らし、早期から専門教育科目を開講するようになりました。ところが、それによる学生の歪みが出始めたため、その後教養教育について再検討する大学が現れ始め、2001年だけでも約3割の国立大学が再度見直しを行い、2002年には中央教育審議会が教養教育の再構築に取り組む必要があると答申しました。

天使女子短期大学では、大綱化当時のSr.外崎陽子学長、Sr.高木節子教授をはじめ教養教育科目の担当教員を中心に協議した結果、専門教育と並んで建学の精神を基盤とした教養教育重視の姿勢をなお貫くことにしました。専門職業人の育成には人間教育が不可欠との判断に基づき、その一端を教養教育が担うと考えたからです。結果的に、昨今他大学が復権しようとしていることは、天使短大において大綱化以前から尊重してきたことであり、大綱化によって更に重視できるようになり、天使短大の個性の一つとして確立してきたことになります。

言うまでもなく、この歴史は四年制大学への改組転換に際しても継承されました。「①建学の精神に基づいた人間性、②社会が求める能力を備えた人材、③人間について専門以外の視点からも広く思考できる専門職人」の育成を目的として、天使短大が大切にしていた教養教育を今なお実践し続けています。

教養教育は、時代の影響を受けない普遍的な価値があるもの、時代の要請に応えなければならないものに大別されると思います。それらがいかにあるべきかを追究することは教養教育の根幹と関わります。天使女子短期大学時代から尊重されてきた教養教育が一層学生に貢献しうるよう、今後も検討、点検評価を重ね、更に充実させていきたいと考えています。

伝統を受け継いで

栄養学科　助手　吉田　真弓

1984年4月の入学式、この日は珍しく雪の降る寒い日でした。私は期待と不安を抱きながら制服である茶色のスーツ（当時、学校行事や学外実習の際に着用していました）に身を包み、天使女子短期大学へ入学しました。あれから20年が経とうとしています。

当時、「労作」と言う時間があり、先生やシスターたちと一緒に庭の草むしり、タンポポ摘み、そして雑巾縫いなどをよく行いました。タンポポ摘みは、軍手をはめ、長い釘でタンポポの根を抜き取るのですが、思いのほか力仕事で、根の深さに四苦八苦したものです。まさに大根抜き状態でした。でもワイワイとおしゃべりをしながらの作業はとても楽しく、担任であったシスターの勇ましい意外な一面も見ることができました。

日常のお掃除では、終了後に必ず先生の点検がありました。中でもシスターが一番厳しく、何度もやり直しを命じられました。回を重ねるごとに今度こそ一回でパスできるようにと努力をしたものです。しかし背の高いフランス人のシスターは、さらに背伸びをして思いもかけない部分（私たちでは手の届かないような高い所）を指摘し、困惑した思い出があります。学生時代には、あまり楽しくない経験でしたが、私も含めて多くの卒業生が社会人となって、大いに役に立った事柄の1つとして挙げられます。

毎日、朝礼の中で祈りの時間があり、自分たちで今日は何について祈るかを決めていました。病気で休んでいる先生や友人、家族、世界のどこかで行われている戦争の平和のために111名の心を1つにして皆で祈りました。この祈りの時間は、日常の雑念を振り払い、清々しい気持ちになれるひとときでした。

天使女子短期大学が閉学することは、卒業生にとって淋しい一面もありますが、今までの良き伝統を受け継ぎ、天使大学の学生へと伝えていきたいと思っております。

記念誌の発刊

栄養学科　教授　小林　良子

天使大学は、2000年4月に天使大学看護栄養学部としてスタートし、2004年3月に第一期生が卒業を迎えますが、その前身である天使女子短期大学は、本年9月30日をもって閉学いたしました。

天使女子短期大学は、1947年札幌天使女子厚生専門学校として創立され、1950年に短期大学へと昇格し、1965年には衛生看護学の専攻科を設置しております。これまで看護師、栄養士、保健師、助産師の養成校として8千余名の卒業生を世に送り出して参りました。

卒業生をはじめ学校関係者にとりましては、幾多の思い出に満ちあふれた学校であったものと思っております。

そこで、創立から閉学までの56年間の歴史を整理し、発展的閉学のモニュメントとして記念誌を発刊することになりました。

去る2001年4月に短期大学閉学記念誌に関する臨時の委員会が組織され、学内の教職員8名からなる委員が発刊準備作業を進めてまいりました。

編目構成内容は、Ⅰ.沿革―1.建学の精神　2.校章　3.年表　4.学生数の動向　5.入試統計　6.卒業生の動向　Ⅱ.学則　Ⅲ.教育―1.カリキュラムの変遷 (1) 看護学科 (2) 栄養学科 (3) 専攻科　2.教職課程　3.修養会　Ⅳ.学生生活―1.学校行事　2.課外活動　3.保健室利用状況　4.寄宿舎生活　5.奨学金　Ⅴ.委員会―1.各種委員会の変遷　2.図書館　3.紀要　4.公開講座　5.自己点検　Ⅵ.校舎の変遷　Ⅶ.理事会　Ⅷ.教職員名簿　となっております。

現在、歴史の重みを感じつつ編さん作業を行っております。

（閉学記念誌委員長）

専攻科閉学にあたって

教育の醍醐味と専攻科への愛着を、これからの夢に託して

専攻科衛生看護学専攻科　科長　白井　英子

看護教育をめぐる動向は、この半世紀で大きく変わりました。保健師教育は大学4年制の統合カリキュラムの中に組み込まれ、北海道内において毎年約400名の大学卒の有資格者を送り出すことになりました。このような全国的なうねりの中で、1965年に保健婦・助産婦の合同教育課程として発足した専攻科も、閉校することになりました。時代の流れによる看護教育の発展的移行とはいえ、教育に関わってきた者にとっては，閉校に一抹の淋しさを感じます。専攻科は定員20名という少人数制の教育でありましたからこそ実践できたカリキュラム運営や教員と学生との関係がありました。そのような教育の醍醐味が、専攻科への愛着を高め「一抹の淋しさ」を駆り立てているのかもしれません。

しかし、最近の学生たちを見ていますと、1年間で保健師･助産師の国家試験受験資格を取得するハードなカリキュラムを履修することは、身体的・精神的にもエネルギーが持続せず難しくなっている現状にあり、検討の時期であると思います。

専攻科卒業生を対象にした調査（2001年度・回答数367名）によりますと、卒業時点では助産師として就職する人が58.9%、保健師29.4%でしたが、現時点ではその数値が逆転して保健師が45.5%、助産師26.6%となっています。また、保健師・助産師合同教育課程で学んだことのメリットについて、「専門的知識技能が身についたこと」「広い視野で考えられるようになったこと」「人間理解の幅が広がったこと」を記述している人が多く、それらは、職業生活だけでなく、日常生活でも生かされていると答えていました。このように、卒業生は苦労して得た2つの資格を人生の各ステージで使い分け、有効に活用している実態を知りうれしく思っております。

長い間、専攻科の教育にご尽力くださいました天使病院はじめ実習施設の皆様、非常勤講師の先生に厚くお礼申しあげます。これまでの52年の歴史を大切にして、さらに、21世紀を羽ばたく天使大学に夢を託していきたいと思います。

「林檎畑」よ永遠に
―専攻科の終幕によせて―

旭川大学　学長　山内　亮史

○群がり起こる思いで

七つの星のそのしたの
誰も知らない雪国に、
林檎ばたけがありました。
（金子みすず）

僕はその教師生活の最初の一歩を専攻科で踏み出すことになった。もう32年前のことである。恩師篭山京先生がある日大学院で修業時代に在った僕に自ら講義をしていた専攻科の「保健医療の社会科学」を代わって出講するように命じたのである。

ただひたすら頭をハイにしてしゃべりまくった稚拙な講義だった。にもかかわらず斎藤和子先生が「評判よろしゅうございますよ」などとおだててくれるのであった。

○天使専攻科サポーターの誇り

どうやらそれは「息子のような先生と娘のような同級生と学んでいる」とレポートしてきた聖母からのシスターの学生や助産婦と保健婦資格を一年で取得する志に燃えた当時の前衛的な女性たちの姿勢に助けられてのことであったと思う。悩みながらの初期の講義を励ましていただいた丸山知子（現札医大教授）、シスター東野（現聖母女子短期大学教授）、久保（久川）洋子（前天使大学助教授）といったスタッフ、学生の皆さんや坪田静子先生、白井英子先生には感謝あるのみである。講義名はその後「家族社会学」「母性父性の社会学」等変わったが、恩師の「保健医療の担い手に社会科学的思考を」の言を手放すまいと心掛けてきた。

やがてめぐる月日の中で各地の講演に行き、たくましく職場にまみれている卒業生と再会するにつれ、「天使の専攻科」のブランド価値の大きさをしみじみと実感することになり、長い間その教育のささやかなサポーターであることに誇りとこだわりを持っている自分に気づくのであった。『過ぎにし春は夢なれど』かつてたしかに若い魂をゆさぶったヒューマンな「林檎ばたけ」があったことを惜別の思いでかみしめる。

「風よ心のかかとに翼をつけて
どんな彼方へもひと晩で行って戻れ
－中島みゆき－」

専攻科閉学に思う
—地区活動論セミナーの指導者として—

えりも町役場保健福祉課
介護支援センター　介護相談係長　小林　美子

平成14年７月、１週間の学習を無事終えた学生さんたちを見送りながら「これで最後なんだなぁ」となんともいえない淋しさを感じました。13年間、７月には「エンジェルちゃんがやってくる」と、町全体が心待ちにしていたこのセミナー。人口６千人強のえりも町で毎朝、旅館から役場までを練り歩く20数名のうら若き女性たちはまさに「えりもの夏の風物詩」だったのです。

町にとっても、保健福祉施策のあり方を問われるこの学習ですが、学生諸姉にとっても慣れない集団生活や話し合い、自分のペースで生活できないストレスなど本当に大変な学習だったと思います。涙あり、笑いありの中で皆さんからいただいた「保健師、私もしてみたい！」「とても素敵な仕事！」等々の言葉は、そのまま私たちの仕事へのエネルギーになっています。

個人的には、就職以来12年のお付き合いでしたが、保健師の現任教育の場として、多くを学ばせていただきました。このような機会を与えていただいたこと、白井先生をはじめとする大学関係者の皆様に本当に感謝しております。また、いつか、天使ちゃんたちをお迎えできる機会を願っています。ありがとうございました。

専攻科閉学に思う
—助産学実習指導者として—

天使病院　助産師　加瀬　しのぶ

私が学生指導に関わったのは、分娩室勤務２年目からで、かれこれ18年になります。３交代の中で、全スタッフが指導していました。実習指導の先生たちにも随分助けられていました。

受け入れ体制づくりを行い、あちこちで学生の報告、質問に「どう思う？」と確認しているスタッフの姿がありました。記録のチェックと振り返りに、時間外になったこともありました。

学生は、実習初めには、緊張して分娩介助で頭が真っ白になってしまったり、観察はしていてもうまく判断を伝えられなかったり、スタッフの言葉に気落ちしたり、ということがたくさんあったと思います。しかし、実習を重ねるごとに少しずつ成長していって卒業を迎えられるようになるのです。そして、全国に散らばり活躍していると思います。

実習指導をしながら、いつも自分の助産師としての姿勢を問われていたように思います。そして、看護者として一人ひとりとの関わり、行ったことに責任を持てるようになってもらいたいというメッセージを伝えられただろうか。助産学実習で何かしら得られたことはあっただろうか。それを土台に看護者として人間として成長していっているだろうかということを、専攻科閉学にあたり改めて考えています。

（専攻科17回生）

「１日25時間笑えます」というほどのエピソード

実習補助教員　岡本　美也子

分娩室での実習中の学生を、少し見ていてほしいと言われたのは、もう何年前だったのでしょうか。とうとう専攻科、最後の年になり、自分でもここまで実習補助教員として関わるとは思ってもいませんでした。本当にいろいろな事があり『一日25時間笑えます』というタイトルの本が書けそうなくらい、エピソードがあります。学生と共に自分のことも、見つめ直さなければならないようなつらいことも数多くありました。ここまでやってこられたのは、何といっても専攻科の先生方の思いやりのある励ましがあったからこそと思います。

振り返ればすべてよい思い出になりました。学問的には何も教えるべきものがない私が、学生に伝えたかったことは結局、助産師としての責任と人に対する敬愛だったと思います。人間の可能性を100％信じきるという子育て戦法を使って、一歩一歩すすんで学生指導という名のもと、自分自身を試していたのだと、思います。

自分を知ることから始まり、生涯、専門性を見つめ続けるという専攻科の理念のもと卒業していった学生たちが、看護の喜びと力強さを知り、人にそのあたたかさを伝え、それがひいては世の中に広がってゆくことを心から願いながら、専攻科、最後の日を静かに見守りたいと思っています。

（専攻科9回生）

専攻科閉学に思う

様似町役場　保健師　郷司　弥幸

昨年大学へ伺い、大きく変わった校舎を歩きながら、変わらない場所を見つけては当時を懐かしく想い返しました。

専攻科での学びは、看護職という専門職業人としての範囲にとどまらず、一人の女性として、人としてを問う期間でもありました。さまざまな課題に取り組む中で、自分の弱さや強さを知り、挫折を繰り返しながら自分への信頼を獲得しました。また喜びや苦しさを共有した友人たちは、今でもとても大切な存在です。

１年という短い期間ですが、現在も私への影響は大きく、今でも何か困難にぶつかる度に逞しく乗り越えられているのは、専攻科での１年があるからだと確信しています。

専攻科閉学後も今までの教育理念や温かみあふれる校舎の雰囲気は、伝えられていくものと思っています。母校の発展を願いながら、卒業生たちの活躍に期待しております。

（専攻科30回生）

専攻科閉学に思う
～卒業生として、保助合同課程での学びを振り返る～

札幌市西区保健センター　助産師　川代　久実子

春、修了式。PTA代表で挨拶している父親。当の本人（私）は、医務室で高熱と迫り来る嘔き気と腹痛に悶絶中。『すごく大変な思いをして勉強した専攻科の修了式に出席できないなんて！！』こうして私の専攻科は無事（？）修了しました。

今、振り返って思うのは、一生のうちにあんなに集中して真剣に学んだことがあっただろうかということです。保助合同課程の過密なスケジュールに一緒に取り組んだ学生の間は、お互いに「甘え」ではない「支え合いながら前に進む」という様な関係だったと思います

私は、何年か病院勤務した後、保健センターで助産師としての業務についております。地域での助産師としての「母子保健」に抵抗なく携われたのも両課程の学習があってこそと思っています。

『色々なことに立ち向かう意欲』をくれた専攻科での学びは、単に「職業」の中だけではなく、「自分自身」を作るのに生かされていると思います。

ちょうど、この原稿依頼があったのは、クリスマスの日でした。専攻科修了生は、キャンドルのように様々の形・色・香をつけ、それぞれの場所で、専攻科で得た芯を灯しているのだなと思います。

（専攻科20回生）

天使祭を通過して

葦の会　会長　森　麻衣香

「記念すべき第50回にあたって、より素晴らしいものに作りあげていこう！」天使祭有志実行委員として、私を含め17人で3月ぐらいから土台を決め、取り組みました。こんなにもみくちゃにされるとは思いもよらなかったのです。

最初、新旧の対立があったり、1年と2年の精神的な大きな壁があったり……また、お互い思ったことを言いづらく、心身共にこたえたり、辛いことを思い出せば切りがないです。しかし、どんなに気に食わない人がいても、趣味が合わなくても、意見の相違があっても、私情は持ち込まないようにしたり、お互い歩みよったり、逆に兄弟姉妹の様になったり、人間として成長できる大きな変化がありました。辛い時ほど、自分を確かめることが重要であり、人生において自分を変えていける、大切な機会であることを悟った今日この頃です。

また、一般社会の人々と触れ合うことで、礼儀が自然に身についたり、現実の厳しさを知ったり、自分の甘さに気づいたり……恐ろしく怖いと思ってた人が実は優しかったり、学科学年を超えて教職員の方の優しさに触れた感動が忘れられません。一分一秒の出会いを大切にできる天使大学だからこそ、学生と天使大学が密接な関係だからこそ、得られるものが大きいと思いました。

そして、友情とはどんなものか考えさせられました。ここで生まれた友情は、見た目だけのものではないということ。それは、真に相手の事を思う気持ちです。表面だけの上っ面の人間関係は気持ち悪く、居心地悪いと感じるようになりました。異性でなくても相手に興味を持つことが人間関係形成に大きく関わることが実感できました。感情・気持ちを言葉に乗せられるように、言葉の表情を変えることができたのは、体力的・精神的にも辛かった、この大きな行事である天使祭を通過したからだと思っています。

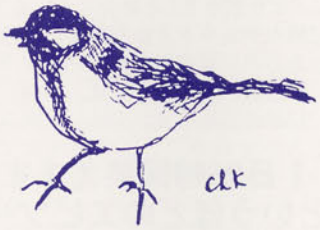
綺麗事ばかり言っているようで、自分でも気持ちが悪いのですが、ここまで素直に文章で表現できるようになって嬉しいと感じます。

また、同時に挨拶運動を呼びかけていきました。途中、精神的にまいったこともありましたが、無事に今までより笑顔に満ちた天使らしさ溢れるようになったのではないかと自己満足しています（笑）。

そして、うれしいことに、目が合って気まずいなと思った時に相手から挨拶をしていただいたことが多々ありました。また、天使祭を通じて知り合った人が増え、本当の意味で学科学年の壁を壊すきっかけとなったと感じました。

目は心の状態を映す鏡で、挨拶は心の状態を測るバロメーターであると思います。しっかり相手の目を見て、挨拶をすることで心が通じ合えると思います。挨拶は、良い人間関係を築く重要な要素であることを再確認した天使祭でした。

（栄養学科2年）



学生課近況

学生課長　内山　昌子

大学でそんなこと

天使祭を1ヶ月に切った昼休み、学生の声で放送が流れた。「天使祭が近づいてきました。皆さんお互いに挨拶をいたしましょう」。学外からのお客さんに対し皆で挨拶。やろうと思えばできる。内心しめしめとうれしかった。翌日から気のせいか挨拶を返してくれる学生が増えたように感じた。その反面、「挨拶しても返してくれない教職員がいる」と学生からのきついクレーム。都合3回の呼びかけは、効果を発揮したように思う。「大学で何でそんなことを」の声も聞こえてきたが、就職間近に慌てるより、自然と身についた挨拶を、お互いに交わせる喜びの方を採りたい。挨拶もコミュニケーションの一つと考えるから。

学生に成り代わる

天使祭は、今年が第50回（天使女子短期大学から通算して）で節目の年。当初学生は、テレビ取材が入るのではと思う程の、壮大な計画を立てたが途中であえなく挫折。これにめげず担当者たちは、例年のごとく1人何役も仕事を抱え奮闘。当日、記録の意味でまず外回りの風景でも撮ろうと、学生玄関の前に立ち仰天。ひっそりと飾り一つ無い入口。大慌てでポスターや、模擬店の宣伝チラシなどかき集め、玄関のタイルに貼付ける（見かねて大和教務課長も手伝う）。まだ淋しいような気がし、芝生に宣伝用のうちわを何枚か刺す。挙句に4月から学生課の職員になった堀切俊介のアイディアで、マリア像の手にも「うちわ」。なかなか好評で記念写真を撮る学生多し。気が付けばこのように装飾にのめり込んでいた。

正直に言うと、50回と言いながら、それらしい企画が見当たらないのを良いことに、前日も一学生に成り代わり、急きょ過去の学園祭のプログラム48冊の表紙を、臨時職員の林美希とカラーコピーし、50回の証し、として張り出す作業をしたばかり。

天使女子短期大学の閉学の年に、まだまだ学生課の出番も残っていたことの証しにもなった。

学事暦

9月9日	後期授業開始
10月18日	編入学試験（看護学科Ⅰ期一般、社会人）
11月7日	体育祭
15日	推薦入学試験、社会人入学試験
28日	戴帽式
29日	編入学試験（栄養学科）
12月8日	創立記念日
18日	クリスマスの集い、学生総会
22日～	冬期休暇
1月17日～18日	大学入試センター試験
24日	編入学試験（看護学科Ⅱ期）
27日～	後期定期試験
2月6・7・13日	一般入学試験
17日	センター試験利用入学試験
3月12日	感謝のミサ
15日	卒業証書授与式

平成13年度決算　（平成13年4月1日から平成14年3月31日まで）

天使大学・比較資金収支計算書（決算額）　（単位：千円）

収入科目	平成13年度	平成12年度	対前年度増減
学生生徒等納付金収入	648,653	551,226	97,427
手数料収入	31,079	27,886	3,193
寄付金収入	4,784	11,138	△6,354
補助金収入	125,645	84,335	41,310
資産運用収入	4,556	5,233	△677
資産売却収入	0	204,000	△204,000
事業収入	2,107	2,447	△340
雑収入	18,732	40,007	△21,275
前受金収入	487,426	375,531	111,895
その他の収入	412,014	21,869	390,145
資金収入調整勘定	△378,824	△347,253	△31,571
前年度繰越支払資金	789,792	591,222	198,570
収入の部合計	2,145,964	1,567,641	578,323

支出科目	平成13年度	平成12年度	対前年度増減
人件費支出	563,867	544,638	19,229
教育研究経費支出	95,391	109,818	△14,427
管理経費支出	45,848	50,014	△4,166
借入金等返済支出	10,000	10,000	0
施設関係支出	461,280	16,751	444,529
設備関係支出	67,134	38,868	28,266
その他の支出	10,774	15,039	△4,265
資金支出調整勘定	△40,319	△7,279	△33,040
次年度繰越支払資金	931,989	789,792	142,197
支出の部合計	2,145,964	1,567,641	578,323

天使大学・比較消費収支計算書（決算額）

収入科目	平成13年度	平成12年度	対前年度増減
学生生徒等納付金	648,653	551,226	97,427
手数料	31,079	27,886	3,193
寄附金	12,233	14,550	△2,317
補助金	125,645	84,335	41,310
資産運用収入	4,556	5,233	△677
事業収入	2,107	2,447	△340
雑収入	18,732	40,007	△21,275
帰属収入合計	843,005	725,684	117,321
基本金繰入額合計	△509,937	△81,471	△428,466
消費収入の部合計	333,068	644,213	△311,145

支出科目	平成13年度	平成12年度	対前年度増減
人件費	564,121	556,841	7,280
（内退職給与引当金繰入額）	(11,542)	(41,408)	(△29,866)
教育研究経費	148,882	160,286	△11,404
（内減価償却額）	(53,491)	(50,468)	(3,023)
管理経費	49,060	53,277	△4,217
（内減価償却額）	(3,212)	(3,263)	(△51)
資産処分差額	14,509	0	14,509
消費支出の部合計	776,572	770,404	6,168
消費収支差額	△443,504	△126,191	△317,313

天使大学・比較貸借対照表（平成14年3月31日現在）

	平成13年度	平成12年度	対前年度増減
資産の部			
固定資産	2,518,087	2,419,998	98,089
有形固定資産	2,292,463	1,827,814	464,649
土地	438,083	438,083	0
建物	1,485,622	1,060,627	424,995
構築物	29,493	32,934	△3,441
教育研究用機器備品	178,923	141,000	37,923
その他の機器備品	11,583	11,251	332
図書	148,759	143,919	4,840
その他の固定資産	225,624	592,184	△366,560
電話加入権	384	384	0
長期貸付金	6,240	4,800	1,440
退職給与引当特定資産	7,000	7,000	0
運営準備引当特定資産	182,000	550,000	△368,000
減価償却引当特定資産	10,000	10,000	0
第3号基本金引当資産	20,000	20,000	0
流動資産	937,267	824,815	112,452
現金預金	931,989	789,792	142,197
未収入金	3,293	32,308	△29,015
短期貸付金	1,920	2,715	△795
仮払金	65	0	65
資産の部　合計	3,455,354	3,244,813	210,541

	平成13年度	平成12年度	対前年度増減
負債の部			
固定負債	247,610	257,388	△9,778
長期借入金	10,000	20,000	△10,000
退職給与引当金	237,557	237,303	254
長期預り金	53	85	△32
流動負債	563,455	409,569	153,886
短期借入金	10,000	10,00	0
未払金	40,319	7,280	33,039
前受金	487,426	375,531	111,895
預り金	25,710	16,758	8,952
負債の部　合計	811,065	666,957	144,108
基本金の部			
第1号基本金	2,878,815	2,378,878	499,937
第3号基本金	20,000	20,000	0
第4号基本金	54,000	44,000	10,000
基本金の部　合計	2,952,815	2,442,878	509,937
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入超過額	△308,526	134,978	△443,504
消費収支差額　合計	△308,526	134,978	△443,504
負債の部基本金の部及消費収支差額の部合計	3,455,354	3,244,813	210,541

平成14年度決算　（平成14年4月1日から平成15年3月31日まで）

天使大学・比較資金収支計算書（決算額）　（単位：千円）

収入科目	平成14年度	平成13年度	対前年度増減
学生生徒等納付金収入	846,358	648,653	197,705
手数料収入	28,100	31,079	△2,979
寄付金収入	5,373	4,784	589
補助金収入	144,625	125,645	18,980
資産運用収入	4,693	4,556	137
事業収入	1,497	2,107	△610
雑収入	13,168	18,732	△5,564
前受金収入	573,570	487,426	86,144
その他の収入	12,378	412,014	△399,636
資金収入調整勘定	△493,430	△378,824	△114,606
前年度繰越支払資金	931,989	789,792	142,197
収入の部合計	2,068,321	2,145,964	77,643

支出科目	平成14年度	平成13年度	対前年度増減
人件費支出	631,946	563,867	68,079
教育研究経費支出	129,634	95,391	34,243
管理経費支出	49,107	45,848	3,259
借入金等返済支出	10,000	10,000	0
施設関係支出	5,905	461,280	△455,375
設備関係支出	42,801	67,134	△24,333
資産運用支出	721,000	0	721,000
その他の支出	48,699	10,774	37,925
			0
資金支出調整勘定	△12,296	△40,319	28,023
次年度繰越支払資金	441,525	931,989	△490,464
支出の部合計	2,068,321	2,145,964	△77,643

天使大学・比較消費収支計算書（決算額）

収入科目	平成14年度	平成13年度	対前年度増減
学生生徒等納付金	846,358	648,653	197,705
手数料	28,100	31,079	△2,979
寄附金	9,816	12,233	△2,417
補助金	144,625	125,645	18,980
資産運用収入	4,693	4,556	137
事業収入	1,497	2,107	△610
雑収入	13,168	18,732	△5,564
帰属収入合計	1,048,257	843,005	205,252
基本金繰入額合計	△77,573	△509,937	432,364
消費収入の部合計	970,684	333,068	637,616

支出科目	平成14年度	平成13年度	対前年度増減
人件費	634,469	564,121	70,348
（内退職給与引当金繰入額）	(8,362)	(11,542)	(△3,180)
教育研究費	201,229	148,882	52,347
（内減価償却額）	(71,595)	(53,491)	(18,104)
管理経費	53,138	49,060	4,078
（内減価償却額）	(4,030)	(3,212)	(818)
資産処分差額	2,689	14,509	△11,820
消費支出の部合計	891,525	776,572	114,953
消費収支差額	79,159	△443,504	522,663

天使大学・比較貸借対照表（平成15年3月31日現在）

	平成14年度	平成13年度	対前年度増減
資産の部			
固定資産	3,221,362	2,518,087	703,275
有形固定資産	2,267,298	2,292,463	△25,165
土地	438,083	438,083	0
建物	1,443,497	1,485,622	△42,125
構築物	27,788	29,493	△1,705
教育研究用機器備品	182,302	178,923	3,379
その他の機器備品	12,692	11,583	1,109
図書	162,936	148,759	14,177
その他の固定資産	954,064	225,624	728,440
電話加入権	384	384	0
長期貸付金	13,680	6,240	7,440
退職給与引当特定資産	10,000	7,000	3,000
運営準備引当特定資産	800,000	182,000	618,000
減価償却引当特定資産	110,000	10,000	100,000
第3号基本金引当資産	20,000	20,000	0
流動資産	448,489	937,267	△488,778
現金預金	441,525	931,989	△490,464
未収入金	6,004	3,293	2,711
短期貸付金	960	1,920	△960
仮払金	0	65	△65
資産の部　合計	3,669,851	3,455,354	214,497

	平成14年度	平成13年度	対前年度増減
負債の部			
固定負債	240,138	247,610	△7,472
長期借入金	0	10,000	△10,000
退職給与引当金	240,081	237,557	2,524
長期預り金	57	53	4
流動負債	628,692	563,455	65,237
短期借入金	10,000	10,000	0
未払金	12,296	40,319	△28,023
前受金	573,570	487,426	86,144
預り金	32,826	25,710	7,116
負債の部　合計	868,830	811,065	57,765
基本金の部			
第1号基本金	2,956,388	2,878,815	77,573
第3号基本金	20,000	20,000	0
第4号基本金	54,000	54,000	0
基本金の部　合計	3,030,388	2,952,815	77,573
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	229,367	308,526	△79,159
消費収支差額　合計	△229,367	△308,526	79,159
負債の部基本金の部及消費収支差額の部合計	3,669,851	3,455,354	214,497

看護栄養学部　看護学科・栄養学科に 3年次編入学定員を設定

総務課長　久保　則雄

近年、科学技術が著しく進歩する一方で、確実に少子高齢化が進行しているわが国では、保健医療福祉、健康管理等に、より質の高いケアが求められています。

それに対応すべき深い専門知識と熟達した技術、あわせて豊かな人間性をもった実践力のある高度職業人の養成が社会的に強く求められています。

編入学定員の設定は、特に北海道の看護・栄養の分野において働くその多くが短期大学や専修学校の卒業生であることから、学習を深め専門職としての能力をさらに高めるため、大学に就学したいとのニーズが高まり、編入学定員の制度化を要望する声が大きくなってきていることによるものです。

本学では、編入学定員を設定することに伴う収容定員の変更申請を今年度の4月末に文部科学省に行い、大学設置審議会での審査を経て、7月末に認可となりました。

編入学の概要は次のとおりです。

編入学実施学部・学科	看護栄養学部看護学科	看護栄養学部栄養学科
編入学定員	15名（男・女）	5名（男・女）
編入年次	3年次	3年次
取得学位	学士（看護学）	学士（栄養学）
卒業後の資格	保健師国家試験受験資格	管理栄養士国家試験受験資格

なお、編入学の出願資格、試験日程、カリキュラムの特徴、短期大学や専修学校で既に取得している単位の認定等詳細につきましては、「大学案内、編入学案内」を用意いたしておりますので、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】
〒065-0013　札幌市東区北13条東3丁目31-2
天使大学総務課入試担当
TEL 011-741-1051㈹　FAX 011-741-1077
ホームページアドレス　http://www.tenshi.ac.jp

ごくろうさまでした

看護学科教授	松谷美和子
看護学科講師	渡辺由加利
看護学科助手	井上由紀子
栄養学科助手	佐藤　薫
教養教育科助教授	松村仁穂子
事務局長	宗万　功
事務局総務課員	森田　敦子
事務局教務課員	森　ひとみ
事務局図書課員	山本百合子

あたらしくスタッフになりました

看護学科教授	津波古澄子
看護学科助教授	鈴木　英子
看護学科講師	ケン・スレイマン
看護学科助手	高田絵理子
栄養学科教授	古崎　和代
栄養学科助手	志賀　一希
栄養学科助手	長谷川めぐみ
事務局長	大津　忠行
事務局財務課員	豊島　利昭
事務局教務課員	北川　真弓
事務局学生課員	堀切　俊介

2003年度在籍者数（2003年10月1日現在）

学科名	学年	人　数
看護学科	1年	88
	2年	89
	3年	90
	4年	88
栄養学科	1年	93
	2年	105
	3年	98
	4年	92

編集後記

学報第6号をお届けします。2000年4月に開学した本学は、2003年4月に1年生から4年生までの全学年がそろい、学内は一層にぎやかに活気で満ちています。4年制大学になって初めての卒業生が、2004年3月に、社会に出ていきます。それぞれが目指す道に向けて、4年生は自己を振り返りながら、総まとめの時期を迎えています。

今回は「天使女子短期大学　閉学にあたって」と題し、特集いたしました。これまでの歴史をしっかりと見つめ受けとめながら、学生と教職員が一緒になって、大学のさらなる発展に向けて歩みを重ねてゆきたいと思います。読者諸氏の皆さまからの学報へのご意見ご要望をお待ちしております。（広報委員会　小川・青木）

R100 天使大学報は古紙100%再生紙を使用しています。